

極楽寺の自然観察(四)

妹尾 治人

極楽寺への道標は六丁碑までが旧登山道にあり、新登山道と合流して七丁碑は見たが、次の八丁、九丁碑は見当たらない。土砂崩れでこの辺に埋没しているものと考えられる。この辺の道は深く掘り込まれて掘り割り状になっている。その坂道を登り切ったところの右上に四等三角点(標高一二五、八m)が設置されている。

この辺りで見える樹木は、カクレミノ、クロキ、サイフリボク(別名シデザクラ)、アラカシ、コナラが多く見られる。これらの木に「極楽寺百会倶楽部」、「極楽寺をいつくしむ会」等の手によって樹木名の札がつけられ登山者を喜ばせている。

植物名はそれぞれに付けられた訳がある。カクレミノ(隠れ蓑)は常緑でこんもりと繁っているので姿を隠すことが出来ることからこの名が付けられた。カクレミノはウコギ科の植物でウドやヤツデと同じような実を付ける。またこのカクレミノは葉っぱの変化が面白い。幼小のときは五列の刻みがあるが、成長にしたがって三列となり、大人になると切れ込みが無くなり全緑の葉になる(写真参照)年と共に角がとれるとは、人間様もそうありたいものだ。

クロキ(黒木)は全体が何となく黒っぽいことからこの名が付いた。この木の特徴として枝先には稜線がある。クロキの根っこにはツチトリモチ

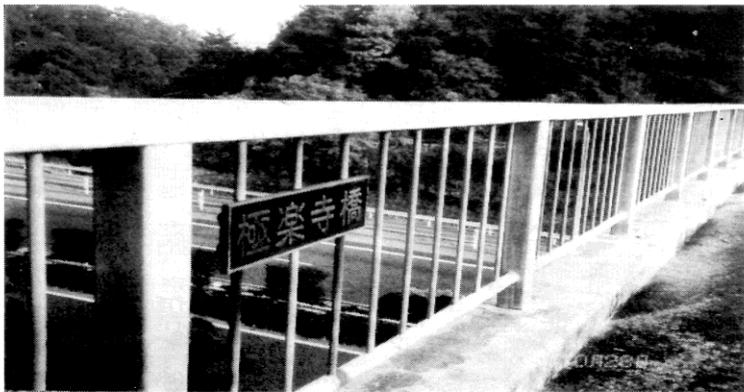


カクレミノの葉

が寄生するものだがこの山ではまだ発見されていない。

サイフリボク(采振り木)は白くて細長い花弁が御幣の様で、采配を振る小旗に見立てこの名がつけられた。

樹木名を見ながら掘り割り状の坂を登るとやがて平坦な道となり右側の地面に半分埋って頭だけ出している十丁碑を発見した。次の十二丁碑は見当たらなかったが、右手に十二丁碑を発見、そこから少し進むと中国電力の大きな鉄塔があり、その左下に山陽道の宮島サービスエリアが見えて来た。そこから降り坂を少し行くと山陽道に架かる



極楽寺橋

歩行者専用の極楽橋だ(一九八五年完成)忙しげに走る車を下に見て少し休憩をした。橋を渡りきった所にアカメガシワがある。そこから来た道を振り返って見ると中国電力の鉄塔の左下に一本だけタマミズキの大木があり、晩秋には赤い実を沢山つけているのが見える。その赤い実は野鳥の好物で正月になるともう一粒も残っていなかった。橋を渡ると舗装された坂道となり両側に珍しいイタチハギが植えられている。登り切ったところで宮島サービスエリア北側の登山道と合流するが、その階段はとてつもなく長い。試しに降りて見ると何と一〇八段あった。除夜の鐘が



宮島サービスエリア

〇八つと聞くがそれにちなんで付けられたのならば計らいだ。

登山道は急な坂道となる。十二丁碑は見たが、十三丁、十四丁は見当たらない。(次号に続く)

高速で行き交う車下に見える

(自然観察指導員)

会報『さくらお』第130号

平成20年3月31日 発行

廿日市市郷土文化研究会事務局

〒738-0014 廿日市市住吉2-2-16

廿日市市市民活動センター内

印刷 シゲモト印刷

